

あなたの子どもたちが 生きる未来のために



若い世代の皆さん、被爆者の声を聞いたことがありますか。
「ノーモア・ヒロシマ ノーモア・ナガサキ ノーモア・ウォー ノーモア・ヒバクシャ」と叫ぶ声を。
あなた方は被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代です。68年前、原子雲の下で何があったのか。なぜ被爆者は未来のために身を削りながら核兵器廃絶を訴え続けるのか。被爆者の声に耳を傾けてみてください。そしてあなたが住む世界、あなたの子どもたちが生きる未来に核兵器が存在しているのか、考えてみてください。互いに話し合ってみてください。あなたたちこそが未来なのです。(2013年 長崎平和宣言より)

2014年度ピースアクションぎふ折鶴平和行進が行われました。

このむごい兵器を作ったのは人間です。広島と長崎で二度までも使ったのも人間です。核実験を繰り返し、地球を汚染し続けているのも人間です。だからこそ忘れてはならない過去の誓いを、立ち返るべき原点を、折りにふれ確かめなければなりません。
(2013年 長崎平和宣言より)



ヒロシマ・ナガサキを二度と繰り返さないで
岐阜市 野村さん



5月に東京夢の島を出発した平和行進。多くの生協が思いを継ぎ8月6日に広島へ入ります。6月11日、愛知県から岐阜県へ引き継がれ、コープぎふの行進の後、三重、滋賀へと継ぎました。



普通のくらしがいつまでも続きますように
恵那市 伊藤さん



平和でないと生かれない
岐阜市 福井さん



今ががんばらなくては
そういう思いです
瑞穂市 青木さん

岐阜県原爆被爆者の会 平野 諒さん 被爆体験を語る

今から69年前、1945年8月6日に広島原爆投下、8月9日長崎原爆投下。

私は10歳のとき、広島市の爆心地から5.5kmの家で被爆しました。シャツ1枚、縁側で本を読んでいたときのことです。すさまじい音とともに、赤と白の火と煙の柱が広島市内に立ち上がるのを漠然と見上げていました。私は、たまたま5キロほど離れた母方の実家にいたこと、そして風向きが逆だったことで大きな被害は免れましたが、爆心地の近くにいた多くの親戚が亡くなりました。

数日後、被爆した叔母が家に運び込まれました。顔は2倍ほど腫れ上がり、食事もできずストローのようなものでおかゆを流し込んでいました。顔にはうじがわき、それをはしでとろうとするととても痛がりました。消毒もなく、傷には油のようなものを塗っていました。今でも思い出される、恐ろしい光景です。

学校の校庭では薪が組まれ、亡くなった方の遺体を焼いていました。周りは畑になっており、さつまいもがつかられ、人が焼かれた灰を肥料として撒かれました。空腹に耐えかねて食べている人もいましたが、私はとても食べ



平野さんが見た火と煙の柱を描いて下さいました。

れませんでした。

広島では、原爆が落とされた年になくなった方は14万人。長崎では7万人。現在までには約50万人の方が亡くなっています。今も地球上では戦争が行われています。たくさんの方が亡くなっています。

広島市の原爆を経験したものは年々少なくなり、語る機会も少なくなっています。だからこそ今、若い人たちに伝えたい。戦争は何も生み出さない。悲しみが残るだけ。戦争がはじまれば、自分たちの意思とは関係なく物事が進んでいく。だから戦争をしてはいけないのです。



戦争体験聞き書き
コープぎふでは2006年度より毎年、戦争を体験された方から当時の様子を伺い、そのお話を文字にし、戦争を語り継ぐ取り組みを行っています。第9集の応募は9月14日(必着)です。聞き書き集は県市町村の図書館に置いてあります。

お問い合わせ先：コープぎふ 暮らしの活動部 058-370-6873

ピースアクション IN ナガサキの報告

黙っていても平和は実現しない
行動しましょう!!
土岐市 加藤さん



子どもたちに平和な
社会をつないでいきたい
各務原市 椋木さん

2013年度ピースアクション IN ナガサキに参加した 本巣市 赤塚さとみさんの報告



人類と核は共存できません。平和憲法が変えられないよう、私たちが行動をおこさなくてはなりません。
平和の活動は過去を振り返ることだけではなく、未来をつくることです。私たちの子どもや孫を、戦争に行かせたくはありません。今の平和を未来の子どもの被爆国として、世界に向けて発信しなければならぬことがたくさんあります。

昨年夏、初めて長崎に行きました。長崎のまちには原爆の爪あとが至るところに残っています。噴水や水に関するものが多く、水が命の宝であることがよくわかります。水が命の宝であることがよくわかります。水が命の宝であることがよくわかります。



平和への思いを千羽鶴に託して。